

ISO/TC249 国際会議

開会挨拶

武見敬三 元厚生労働大臣

- ・ 世界各国からお越しいただいた代表者の皆様、同僚の皆様、おはようございます。
- ・ ISO/TC249/SC1 の第 1 回総会において開会挨拶をさせていただくことを大変光栄に思います。元厚生労働大臣として、この歴史的な会合の意義についてお話しできることを嬉しく思います。
- ・ 本会議を日本で開催してくださった日本東洋医学連絡協議会（JLOM）に心より感謝申し上げますとともに、世界各国からお越しいただいた専門家の皆様に温かく迎えたいと思います。

アジアが直面する超高齢化という共通の課題

- ・ アジア地域は、前例のない人口構造の変化の最前線に立っています。日本はこの変化をリードしており、その現状を主要なデータで示しています。
- ・ 現在、日本の人口の約 29%が 65 歳以上、16%が 75 歳以上です。2050 年を見据えると、主要都市圏における 75 歳以上の人口は、2020 年比で約 150%増加すると予測されています。さらに、2030 年代半ばには、全世帯の約 40%が単身世帯になると見込まれています。

これは、家族による介護から、高度に都市化された環境で一人暮らしをする高齢者へと、大きな変化を意味します。

これは日本だけの課題ではありません。ベトナムでは、高齢者人口が約 18 年後には 7%から 14%へと倍増すると予測されています。多くのアジア諸国は、「豊かになる前に老いる」という課題に直面しており、十分な準備や資源がないまま急速な高齢化に直面することになります。

アクティブエイジングと伝統医療

この新たな時代において、私たちの目標は「アクティブエイジング」です。高齢者が社会とのつながりを維持し、生産的な時期を延ばし、適切な栄養、運動、そして包括的な健康管理を通して、自らの健康を積極的に管理できるようにすることを目指します。

まさにここで、伝統医療が変革的な役割を果たすことができるのです。数千年にわたり、伝

統医学は東アジア全域で人々の日常生活に深く根付いてきました。病気を予防する、つまり病気になる前の段階で予防するという、日本では「みびょう」と呼ばれるその包括的な哲学は、アクティブエイジングの理念と完全に合致しています。

- ・ 伝統医学は、慢性疾患の管理、疼痛緩和、認知機能の維持、そしてメンタルヘルスの促進に統合的なアプローチを提供します。一人暮らしの高齢者にとって、健康面でのサポートだけでなく、重要な社会的なつながりを提供し、孤立を防ぐのに役立ちます。

エビデンスに基づく国際標準化

- ・ 伝統医学がその潜在能力を最大限に発揮するためには、科学的根拠に基づき、国際的に認められた品質基準によって支えられる必要があります。まさにこの点において、ISO/TC249/SC1 の活動は極めて重要な意味を持ちます。

- ・ 漢方薬の品質と安全性、鍼灸針と医療機器の標準化、そして用語と医療情報学の調和——これらの取り組みは、伝統医学を 21 世紀の医療システムに統合するための不可欠な基盤を築きます。

- エビデンスに基づいた国際基準は、患者を保護し、信頼を築き、国際的な医療協力を促進します。

未来志向の協働

- 本日ここに集まった専門家の皆様は、多様な伝統医療体系の知恵と経験をお持ちです。皆様の議論が、科学的厳密性と伝統医療の多様性への尊重とのバランスを取り、全人類に貢献する真に国際的な基準を創り出すことを心から願っております。

- SC1 のこの最初の会合は歴史的な節目となり、皆様の協働努力がアジアをはじめ世界におけるアクティブエイジングの実現に大きく貢献すると確信しております。

- この重要な取り組みへの皆様のご関心とご尽力に心より感謝申し上げます。